

神奈川県

東京湾

鎌倉市

逗子市

相模湾

横須賀市

三浦市

アクセスMAP

- 車の場合
横浜横須賀道路 衣笠 IC、佐原 IC から共に約15km
(衣笠 IC 経由) 三浦縦貫道路 林出入口 から約10km
「車・貸切バス等の場合、比較的道の空いている
東廻り道路(県道215号線)をご利用下さい。」
- 公共交通機関の場合
京浜急行電鉄三浦海岸駅から京急バス「海35」(②のりば)
鰐崎経由三崎東岡行 宮川町下車 (所要時間35分) 徒歩約10分



■ 事業主体

三浦地域資源ユーズ株式会社

〒238-0105 神奈川県三浦市南下浦町毘沙門2305番地6
TEL : 046 (881) 0030 / FAX : 046 (881) 0038

■ 設計・施工・運転管理

JFE 環境テクノロジー株式会社

環境ソリューション事業本部 営業部
〒261-7131 千葉県千葉市美浜区中瀬2丁目6番地1 WBGマリブイースト31階
TEL : 043(351)9163 / FAX : 043(351)9179

「JFE環境テクノロジー株式会社三浦バイオマスセンター」は
JFE環境テクノロジー株式会社から命名権を取得した施設の
愛称です。



JFE 環境テクノロジー 三浦バイオマスセンター



三浦地域資源ユーズ株式会社

毎日の市民生活を支え、資源循環型社会に役立つ施設

「し尿」浄化槽汚泥を処理してきた三浦市衛生センターが老朽化し、立替えが必要になりました。そこで、三浦市と三浦商工会議所の呼びかけによって、平成18年7月に「三浦地域資源ユーズ株式会社」が設立され、国の交付金を受けて「三浦バイオマスセンター」を建設しました。この施設での処理対象物は、「し尿・浄化槽汚泥」の他に「農作物収穫残渣」「水産残渣」「下水道汚泥」を受入れ、処理過程で生成したバイオガスを燃やして、お湯や電気をつくり出して施設を動かすエネルギーに利用しています。また、堆肥も製造して農地に還元する等、資源を有効利用して循環型社会に役立っています。



メタン発酵槽

メタン菌の働きで有機物を分解しバイオガスを発生させます。



ガスホルダー

メタン発酵槽で発生したバイオガスを貯留します。(最大貯留量：600m³)



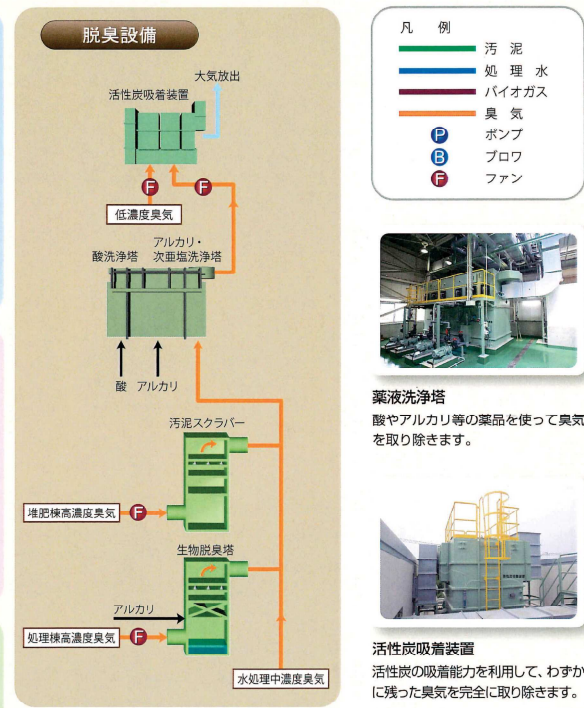
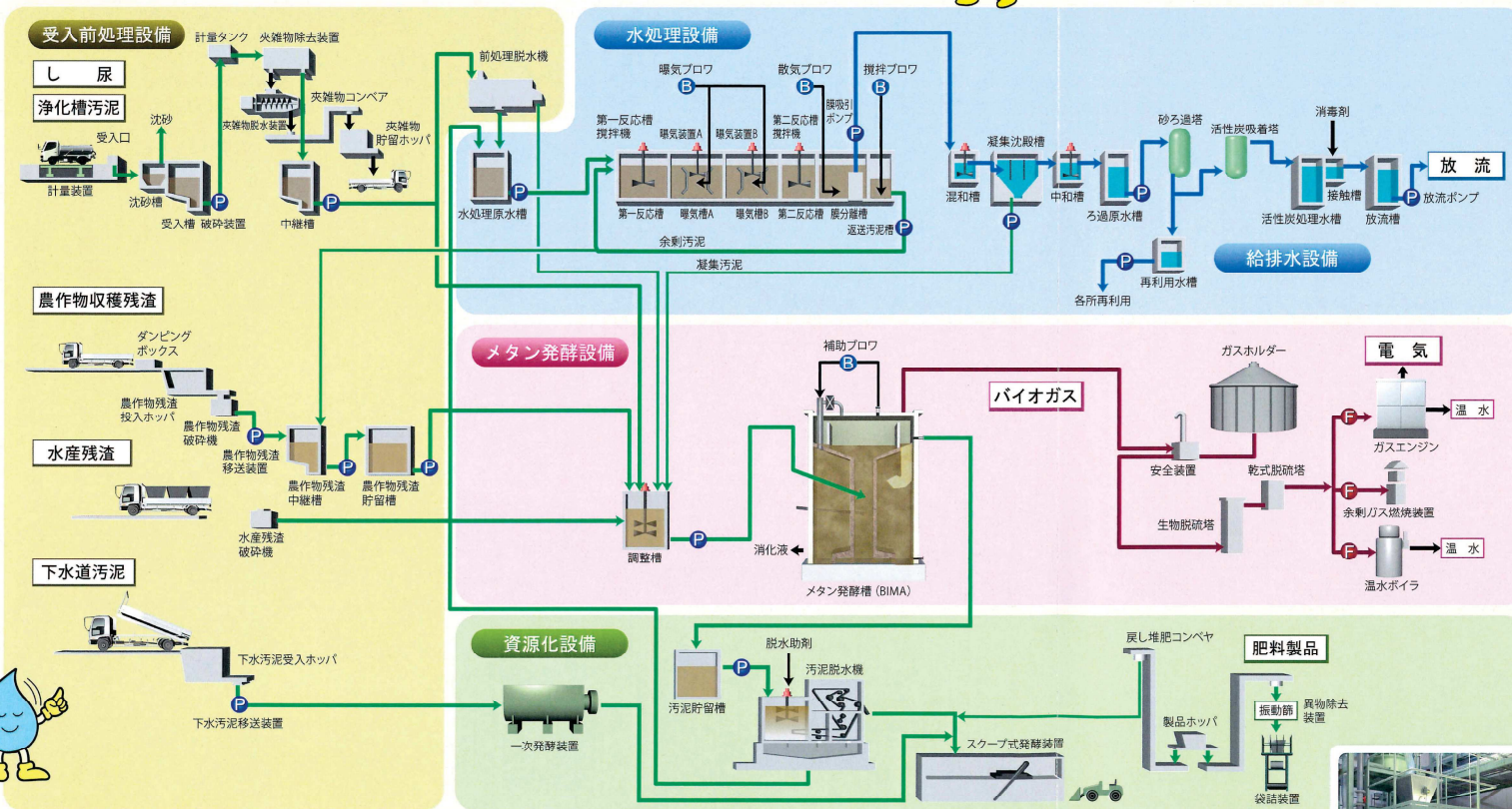
発電機 (ガスエンジン)

発生したバイオガスを利用して電気を作り、施設内の電力に使用します。



温水ボイラ

発生したバイオガスを利用してお湯を作り、堆肥化設備の加温等に使用します。



- 凡例
- 汚泥
 - 処理水
 - バイオガス
 - 臭気
 - P ポンプ
 - B ブロフ
 - F ファン



薬液洗浄塔
酸やアルカリ等の薬品を使って臭気を取り除きます。



活性炭吸着装置
活性炭の吸着能力を利用して、わずかに残った臭気を完全に取り除きます。



小分離装置
小さな穴のあいた膜によって、微生物や汚泥を分離します。



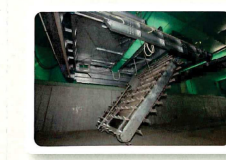
水質検査室
処理水などを分析し、放流基準を満たした安全な水かどうか検査します。



汚泥脱水機
メタン発酵槽の消化液を圧押し、水分を取り除きます。



一次発酵装置
下水道汚泥を散気しながら攪拌し、約14日間発酵させます。



二次発酵装置 (スクープ装置)
脱水汚泥及び一次発酵汚泥を混合し、さらに約14日間発酵させます。



袋詰装置
できあがった堆肥を自動で袋詰めします。

処理方式	メタン発酵：中温発酵方式 (約35℃) 水処理：高負荷膜分離室処理方式
発酵槽	円筒型無動力攪拌式発酵槽 (BIMA)
処理対象物	し尿・浄化槽汚泥、農作物収穫残渣 (大根、スイカ、メロンなど)、水産残渣、公共下水道汚泥など
処理量 (計画量)	し尿・浄化槽汚泥：約65kL/日 農作物収穫残渣：約20t/日 水産残渣：約0.5t/日 公共下水道汚泥など：約4t/日
搬入形態	バキューム車/地元農家による搬入など
計画発生ガス量	約1,000m ³ /日 (メタンガス濃度 約60%)
発生ガスの用途	発電 (場内利用、系統連結)、熱利用 (発酵槽加温など)
その他の副生成物	脱水後の固形分は堆肥として利用
排水処理方法	生物処理・高度処理・消毒後海域放流 場内洗浄水など再利用